

【報告者】萩野 麻衣	
【学年】 3年	【教科・単元名など】道徳「ある日の給食当番」(2-(2)思いやり)
【実践内容】 ○ プリントの絵を見て、どんな場面かを予想する。 「Aくんは給食の白衣を着ているけど、Bくんは着ていなくて、Aくんは怒っている。」 「AくんはBくんに何か命令しているみたいだ。」 ○ 絵についてのお話を聞く。 ○ Aくんが言った言葉を、絵の表情や話の内容から予想する。 「お前がしなかったせいで、俺は二人分の仕事をやらなくちゃいけなかったんだ。今度からはちゃんとやれよ！」 「今日も給食当番をやらないなんて、ずるいよ！」 ○ 隣同士でペアになり、それぞれAくん、Bくんの両方の役を演じてみる。 ○ Bを演じたとき、どのように感じたのかを話し合う。 「ぼくがやらなかったせいで、みんなに迷惑が掛かっている。」 「ごめんね。」 「そんなこと言われたらよけいやりたくなっちゃうよ。」 ○ Bくんが給食当番をできなかった事情を知る。 ○ AくんとBくんはそれぞれどのようにすればお互いに嫌な思いをせずに済んだかを考える。 Aくん 「Bくんに遅れた理由を聞けば良かった」 「もちょっと優しく言えばよかったな。」 Bくん 「理由をAくんに言っておけば良かった。」 「ちゃんと謝れば良かった。」 ○ 自分の生活を振り返りながら、授業の感想を書く。	
【反省】 今回は、自作資料で道徳の授業をやってみた。始めは、絵だけで子どもに場面を想像させようと考えていたが、想像しにくいということに気付き、読み聞かせ形式でお話を加えることにした。また、始めは児童がなかなか経験しにくい場面を設定していたが、より身近な場面設定の方が児童が想像しやすいと思い、「給食当番」という場面設定にした。 「自分だったらどうするか」ということを想像することで、子どもたちも、臨場感を感じながら考えることができたようである。しかし、始めのAくんがBくんに向かって怒鳴る場面で本音が出すぎてしまい、価値に迫るべき「Aくん、Bくんがどうすべきであったか」を考える場面で、トーンダウンしていた。Bくんの事情を知った前と後での気持ちの変化を、子どもたち自身が気付くことができるように、「どうすべきであったか」を考えると、始めと同じ場面を使えば良かったと考えた。 また、いまいちうまく自分が感じさせたいと思った価値に迫ることができなかったのも、最後に説話や、子どもたちの発言などを上手に取り入れながら迫っていきたいと思った。	

